



## ひとりひとりのかけがえのない大切な命

新型コロナウイルス感染拡大の影響で6月から学校が再開されました。日常の生活はもちろん、授業や部活動の在り方にもさまざまな制約がありましたが、子どもたちは新しい生活様式に戸惑いながらも、この状況を前向きにとらえ学校生活送ってくれたと思います。不自由さの中「命」「感謝」など、私たちが生きていく上で大切なことについて考える機会を与えてくれたような気がします。

夏休みを前に、命を大切にしてほしいということを伝えたいと思います。今までに作品を見て、詩人で画家の星野富弘さんを知っている人もいるでしょう。星野さんは、大学卒業後に中学校の体育の先生になりますが、部活動の指導中に大けがをして、手足が動かなくなり、一生寝たきりの生活となりました。生きることに絶望しますが、口に筆をくわえて詩や絵を描き始め、生きることの喜びと命の尊さを知り、今を一生懸命に生きている人です。大けがによって手足の自由を奪われ、「俺は生きている価値がない。次の朝に死んでいたらいいのに・・・」と思いながら眠りについたことも何度もありました。でも「命と俺は別にあるんだ。俺が生きるのをあきらめても命は生きようとしている。命が俺を生かしてくれている。せっかく生かされた命を使い込んで、いい味が出るまで、思いっきり使っていこう。」と、前を向いて生きます。星野さんの母も一生懸命になって世話をし続けました。星野さんは、お腹の中に管を入れて尿を出さなければならなかったので、その管が詰まるごとに苦しく大変なことになります。母は、わが子の苦しみを和らげるために、管が詰まるたびに、その管をくわえて息を吹き込んだり、吸ったりして詰まりをとってくれました。「自分の体を切り刻んでも、生きる力を息子の体の中に送り込みたい。」という母の愛に星野さんはこう応えています。「神様がたった一度だけこの腕を動かしてくださるなら、母の肩をたたかせてもらおう。」

忘れないでください。あなたが産まれたとき、心から喜び、生きる幸せを感じた家族の人たちがいることを、あなたをこの世で一番大切に思っている人がいることを、あなたのことが大好きな友だちや先生がいることを・・・。この世にたった一つしかないかけがえのない命を、大切に大切に育ててください。



**保護者の皆様へ** 感染症対策を講じながら、教職員が一丸となり、また各ご家庭・保護者にご協力をいただき、教育活動に取り組みました。この間の保護者の皆様方のご理解・ご協力に感謝申し上げます。まだまだ収束には時間要します。すべての人が自覚をもち行動すること以外、収束への道はありません。夏休みに入りますと部活動で登校することになります。顧問より、活動前後の手洗いの指示や健康観察は行いますが、登校前の検温等、ご家庭でも健康観察を十分にしていただき、今まで同様、発熱等、体調が思わしくないときは、登校や外出を見合わせてください。

今年度の本校PTAは例年通りの活動はできませんが、本部役員の方々を中心に挨拶運動・広報誌の発行等に取り組んでいただいている。今後、ボランティア等お願いするございましたら、ご協力よろしくお願いいたします。なお、PTA会費より、コロナウイルス感染拡大防止に関わる物品を購入させていただく予定であります。本校教育推進のために、ご理解・ご協力いただいておりますことに、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。